

社会

文化・社会貢献活動

方針・考え方

東京建物グループでは、さまざまな文化・社会貢献活動を通じた豊かな社会の実現は、自社の事業の持続的な発展につながると考えています。そのため、文化・芸術活動、教育支援、スポーツ振興、災害復興支援等、さまざまな社会貢献活動を行っています。

地域社会の一員として、まちづくり、コミュニティづくりに取り組むとともに、「豊かな社会づくり」に貢献します。

豊島区立芸術文化劇場のネーミングライツを獲得

東京建物は「Hareza 池袋」の開発を推進し、2019年4月に竣工した「豊島区立芸術文化劇場」のネーミングライツを獲得しました。

愛称名「東京建物 Brillia HALL (ブリリア ホール)」として、豊島区が推進する「国際アート・カルチャー都市」のシンボルとなる1,300席の多目的ホールとして、さまざまな文化芸術活動を推進していきます。



BAG-Brillia Art Gallery-での芸術文化推進

東京建物は、2021年10月に、江戸時代から絵画等の芸術文化が育まれる東京・京橋に、「BAG-Brillia Art Gallery-」をスタートさせました。

江戸期、江戸城下では日本画史における最大派閥「狩野派」がその拠点を設けたほか、歌川広重など多くの浮世絵画家も居住し、芸術文化が栄えました。その歴史を受け継ぎ、次の時代へと繋げることを目指して、BAG-Brillia Art Gallery-はこの京橋の地でアート活動を推進していきます。

オープンの幕開けを彩る展覧会として、「ヘラルボニー/ゼロからはじまる」を2022年1月まで開催します。ヘラルボニーは、「異彩を、放て。」をミッションに掲げる福祉実験ユニットです。本展覧会では、障害のあるアーティストが描いた“異彩を放つ”原画作品や、それらがプロダクトデザインに落とし込まれたアートライフブランド「HERALBONY」の展示を通して、誰もが違いを認め合い自分らしくいられる世界を目指します。

「BAG-Brillia Art Gallery-」の情報はこちら



Brillia Art Awardでのアーティスト支援

東京建物は、次代を切り開く先進性をもったアーティストとの出会い・応援を目指し、2018年より公募展「Brillia Art Award」を開催しています。

この公募展で入選の基準となるのは、完成した作品そのものではなく、制作プランです。入選者3組には制作補助金30万円、実際に完成させた作品の評価で、大賞受賞者には別途賞金20万円を提供し、入選作品は東京建物八重洲ビル1階にあるBrillia Loungeの一角に設けた展示スペース「THE GALLERY」で約4ヶ月間展示されます。

「Brillia Art Award」の情報はこちら



社会

文化・社会貢献活動

難病患者と家族の支援

東京建物が所有する賃貸マンション「Brillia ist Tower 勝どき」は、子育て支援と地域の共生をテーマとしたマンションです。建物内に、認定こども園やファミリーハウス、小児科クリニック、子育て世代向け住宅等があります。

ファミリーハウスとは、小児がん等の難病治療のために遠方から大都市の病院に来ている子どもと介護する家族に、滞在施設として使っていただく「もうひとつの我が家」のことであり、認定NPO法人*ファミリーハウスが運営しています。

東京建物はこの活動に共感し、国立がん研究センター中央病院と聖路加国際病院に近い「Brillia ist Tower 勝どき」に、和洋室2部屋と共用室を備えた130㎡のハウスを設け、無償で提供しています。

* 認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)とは、団体への寄付を促す税制上の優遇措置を受けられる団体。認証制度によるNPO法人は申請のみで設立可能だが、認定を受けるには一定の活動期間と所轄庁による調査に合格する必要がある。



障がい者スポーツの支援

東京建物は、社会貢献活動の一環として、2015年8月から公益社団法人日本パラスポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナーを務めています。

障がい者スポーツの理念である「活力ある共生社会の創造」実現の一助となるべく、障がい者スポーツの普及啓発活動等を通じて、障がい者スポーツを積極的に応援しています。

また、2016年12月にオープンした、陸上競技施設「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」のネーミングライツを取得し、施設運営に協力しています。「新豊洲 Brillia ランニングスタジアム」では、競技用義足開発ラボラトリーが併設され、障がい者も健常者も一緒になってトレーニングが行えます。



米づくりを通じた震災復興支援

東京建物グループは、東日本大震災からの復興および都市と農村の交流を通じた豊かな社会づくりを目指し、福島県天栄村の特産品「天栄米」の米づくり活動を支援しています。

2016年まで保有していた「羽鳥湖高原レジーナの森」が天栄村に所在していた縁により、支援活動をはじめており、社員の有志約100名が参加しています。社員とその家族が地元農家の方々と交流しながら、春の田植え、夏の草とり、秋の稲刈り等の作業を体験しています。

こうした活動を通じて、天栄村に対する理解を深めるとともに、会社と個人が一体となって、天栄村から福島の復興を応援しています。

